

令和5年5月26日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第77回（通算第156回）定例会 会議録

- ◆日時：令和5年5月16日（火） PM7：05～8：25
◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
◆出席者：17名 +オンライン3名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：25】

- 19：05～ 開 会
- 19：05～19：15 情報提供
まごころサポート 2023 春号
新型コロナウイルス感染症が5類に
- 19：15～20：00 意見交換（グループワーク）
「高齢者の在宅生活とペット」
GWテーマ
・高齢者支援の中でペットのことで困ったこと
・その対応策
・ペットと地域で生活していくことについて思うこと
・こんな資源があるといいのに・・・。
- 20：00～20：25 発 表
- 20：25 閉 会

【意見交換】

○困りごと

- ・現在、多職種で関わりをもち介入しているケースあり。
→ペットがいることで衛生面に課題あり。ごみ屋敷状態。支援者なし。処置が必要な傷あり、と多問題。多職種で情報共有しながら、支援を進めているとのこと。
- ・本人が亡くなったあとの処理に困る
- ・「入院するとペットの世話ができなくて、入院しない」というケースがある。
- ・コロナ感染して入院するために、ペットの世話をする人を保健所で探したこともある。
- ・ペットホテルはあるけど、大型犬を見てくれるところがない。あっても費用が高額。
- ・利用者が野良ネコに餌をあげるので、近所から苦情を言われたことがある
- ・犬の散歩に行つてて転倒して要介護になったケースあった
- ・多頭飼いが貧困ともリンクする
- ・まごころサポートの支援内容として、ペットの支援をした
- ・ペットで問題になっている人は。家族の支援が乏しい

⇒ペットも含めて支援できるシステムを作っていく必要がある。

○解決策や要望

- ・保護した猫を地域ネコにする取組に協力したことがある。
- ・犬やネコの管理が進んできている。
- ・責任をもって飼うこと
→支援者も利用者に助言できるようになっておくことが重要
飼う時に自分が見れなくなったときにことを考えてもらう
- ・良識を持ってもらう
→ペットの将来も含めて認知症になったときの意思決定支援、後見の問題も。
- ・AIロボットがペットになりうるかも。施設入所に支障がなく、将来的な需要はある。
- ・ペットロスの人が集まる場、話ができる場があるといい
- ・ペットと一緒に生活できる施設があるといい
- ・ペットにやすらぎを求める気持ちは共感できる。ただ何かあったときの保障は飼い主の責任

⇒さまざまな社会資源やボランティアの情報を収集しておく。

飼える限界点をアセスメントしておくことも支援者の役割。

どこかで引導を渡す必要がある。それをするのはいつ、だれが・・・という課題も。

※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・体調確認と必要に応じて非接触型温度計による体温測定
- ・手指消毒・換気
- ・マスク着用
- ・ZOOMを活用したオンライン研修

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和5年6月20日（火） 午後7時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：新型コロナウイルス感染症、2類相当から5類に（仮）

講師：田辺保健所